

氏名	浪花 宏 幸		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 乙 第 2788 号		
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	肺癌患者におけるエネルギー代謝の研究 —術後における分岐鎖アミノ酸投与の影響について—		
論文審査委員	教授 折田 薫三	教授 産賀 敏彦	教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肺切除患者78例において、術前、術後の栄養評価とエネルギー代謝の関係を調べた。原発性肺癌が72例、良性肺疾患が6例であった。原発性肺癌患者で肺葉切除術を施行した50例については、術後早期に分岐鎖アミノ酸の投与を行い栄養状態、呼吸機能への効果を検討した。肺癌患者では安静時エネルギー消費量は良性肺疾患患者より有意に高値を示した。病期が進行するにつれて安静時エネルギー消費量は高値を示し、非蛋白呼吸商は低値を示す傾向が認められた。肺癌患者の約10%にProtein Calorie Malnutritionが認められ、安静時エネルギー消費量は栄養状態の低下とともに高値となる傾向が認められた。肺手術後早期に分岐鎖アミノ酸の投与は、安静時エネルギー消費量の上昇は抑制せず栄養状態にもエネルギー代謝にも有効性は認められなかったが、CO₂の排出を促進する傾向がみられた。分岐鎖アミノ酸は、術後早期の呼吸筋のエネルギーおよび蛋白供給源として有用と思われる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究者は、肺除去患者78名（肺癌72名、良性疾患6名）につき手術前後のエネルギー代謝の変化を知る目的で、安静時エネルギー消費量（REE）を測定し、肺癌患者ではREEが良性疾患患者のそれに比し高値であり、病期の進行度に比例して上昇することをみている。また術後早期に分岐鎖アミノ酸を投与すると PaCO₂が早期より低下し、呼吸筋の

エネルギーおよび蛋白供給源として有用なことをみている。臨床上価値ある知見であって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。